

県立高等学校教育の在り方に関する地区別懇談会（盛岡地区①）

懇談の記録（要旨）

【盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町】

令和6年5月27日（月）

岩手県公会堂 2階26号室

中村 一郎 盛岡市副市長

- ・ 県立高校教育の在り方の中間まとめの方向性は基本的によいのではないかと。
- ・ 地区割の広域化については、生徒数の減少や交通網の発達状況を考えれば、進めていく必要があるが、引き続き地域の方々、関係する団体、保護者等に丁寧な説明をして進めていただきたい。
- ・ 統廃合を進めた場合、遠くの高校に通う生徒が出てくるとされる。また、沿岸地区の場合は、過去の統廃合により公共交通機関の利用者が激減する影響が出ているので、考慮の一端に入れていただきたい。

若林 武文 雫石町副町長

- ・ 雫石高校が存続するための魅力づくりに取り組んできた。現在、副食費、通学費、入学時費用等の支援を行っている。
- ・ 高校は地域の担い手の人材育成の役割が期待され、持続可能な地域づくりには欠かせない存在である。
- ・ 地域中学生の進路の選択肢を閉ざさぬよう、今後、1学級校の在り方については、柔軟な対応が大切である。また、盛岡市一極集中を是正する募集定員の調整や、私立高校との募集の調整の検討も必要である。

岩淵 和弘 矢巾町副町長

- ・ 県立高校教育の在り方の中間まとめについては、基本的には理解できる内容である。
- ・ 子どもたちの多様なニーズ、希望する進路を実現するための高校教育は必要不可欠である。
- ・ 地域との連携・協働を、より一層図ることにより、地元の高校に対する愛着が醸成されるものである。また、中学生の今後のキャリアを考えると、教育の機会の保障と教育の質の保証、学校の特色化・魅力化を進めていただきたい。

菊池 透 盛岡商工会議所 専務理事

- ・ 高等教育機関の地域連携のプラットフォームを作る活動をしているが、人材の育成、地元定着に大きな課題があり、大学入学後ではなく、高校から地域連携が必要との意見が出ている。
- ・ 地域の人材、地域産業の人材を確保するという観点からは、高校教育が大事である。
- ・ 探究学習の授業や成果発表は、非常に良い取組であり、社会人として、地域や企業等で活躍できるベースが形づくられていくと思われる。今後も探究的な学びを地域と連携して進めていただきたい。

北田 晴男 盛岡市農業委員会事務局 会長

- ・ 農業従事者が高齢化し、人口は、急速に減少している。そのような中で、新規就農者に期待が高まっているが、農業高校卒業者の就農率が低いと聞いている。高校卒業後、すぐに就農してほしいということではないが、農業の大切さ、楽しさをもっと伝えていただきたい。
- ・ 専門高校には、多少遠隔地からでも目的を持って高校を選択するような魅力ある教育を進めていただきたい。

竹原 涉 雫石商工会 事務局長

- ・ 人材確保、人口減少に歯止めをかけるために、生まれ育った町に貢献したい、町に残りたい、進学しても戻って就職したいという町づくりを進めていきたい。
- ・ 雫石高校は、地域探究活動を取り組んでいるようだが、観光資源、ものづくりなどの地域資源を生かして、授業の中で地域に密着した関わりを持っていただきたい。
- ・ この町で仕事をしたいと思うような土壌づくりが必要である。

黒沢 純樹 新岩手農業協同組合雫石支所 南部エリア統括部長

- ・ 教育環境の再構築については待ったなしと捉えている。
- ・ 中間まとめの基本的な考え方に、教育の質の保証、教育の機会の保障に向けた学校配置があるが、通学距離が遠くなる場合は、交通支援や遠隔授業と対面授業を併用し対応する必要があると考える。
- ・ 地域や地域産業を担う人材を育成しても、地域や地域産業に魅力がなければ、県外大学を卒業後に地域には戻らないことも考えられ、学校に限らず、魅力ある地域社会、地元企業になる必要があると考える。

辰柳 慎一 葛巻町産業振興協議会 副会長

- ・ 地域資源を生かした高校再編が求められるのではないかと。
- ・ 再編するにあたり、地域のことを考えれば、葛巻町から盛岡市の高校へ進学すると、アパート代や生活費も別途必要であり、経済的に通わせることができない家庭もある。各家庭の経済事情等で、子どもが取り残されるような教育方針であってはならない。誰一人取り残さないような教育活動が必要であり、子ども第一で考えていただきたい。

村松 幸雄 矢巾町商工会 専務理事

- ・ 地域産業の大きな課題として、人材の確保があり、近年、事業継承者不足による廃業が非常に増えている。このことから、地域社会は、子どもが仕事のどのようなことに魅力を感じるのか等を考え、進んでいかなければ、地域に残る子どもが激減していくと思われる。学ばば学ぶほど外に出ていく事例をなくしていかなければならない。
- ・ 今後、職業感の醸成の観点から、小学校から高校、大学まで、共に学び、共に育つ教育を目指す必要がある。

阿部 正明 いわて中央農協矢巾営農センター センター長

- ・ 今後、農業の学科、系列を設置している専門高校や総合学科高校への進学率はさらに減少し、再編は避けられない。私たちの食や食料自給率を考えると、農業の専門的な教育に力を入れていただきたい。
- ・ 小中学校段階から魅力ある農業経営や、農業高校の魅力などを発信して、希望を持てるように検討を進めていただきたい。また、普通高校の生徒にも、今まで以上に農業の魅力等について、教育の中で話す機会を作っていただきたい。

工藤 昭敏 盛岡市立巻堀中学校PTA 会長

- ・ 統合については、今後の地域の在り方にも関わると思われるため、地域に丁寧な説明をしていただきたい。
- ・ 通学支援について、コンパクトシティ推進等の町づくりと併せて考えていかなければならない。
- ・ 各高校において、生徒が希望する科目を選択できる教育課程となるように検討を進めていただきたい。
- ・ 高校再編を進めるにあたり、発展的で希望が持てるような方向性を示していただきたい。

佐々木 静美 雫石町立雫石中学校PTA 会長

- ・ 県内公立高校の募集定員は、内陸に比べ、沿岸や県北等でより減少することが懸念されるが、生徒の希望する進路の選択の幅が狭まることは避けたい。教育の機会の保障と教育の質の保証を図り、生徒が進学したいと思えるように検討を進めていただきたい。

近藤 章子 葛巻町立葛巻中学校PTA

- ・ 中学生のアンケート結果から、高校再編の際には、各専門高校の学科の専門性を維持しながら、広い地域での再編が必要であると考えます。
- ・ 中学校段階で進路の専門性を決めることには、迷いが生じるため、普通科を選択する傾向が強いと思われる。親としては、子どもの希望を最優先に応援したい。
- ・ 志願者数が少なくなったからといって、1学級校にならないように検討していただきたい。

佐藤 寿信 矢巾町立矢巾中学校PTA 会長

- ・ 子どもたちが、自分で人生を切り拓くために必要な資質・能力を備える機会を与えることは大事である。そのためには、ある程度の規模感を有する学校が必要であることは理解した。
- ・ 再編により、各家庭の経済状況等で進学先に差が出ないようにフォローしていただきたい。
- ・ 各高校の魅力は、将来の目標を実現するための学力を身に付けることが基本になる。

多田 英史 盛岡市教育委員会 教育長

- ・ 東日本大震災津波以降、郷土への愛着、地域や地域産業、復興を支える人材を育成する教育環境の構築に取り組み、その延長線上で高校教育の在り方の議論を重ねてきた。特に本県では、地域との連携・協働を深めていくことがポイントになる。
- ・ 岩手県の高校において、コミュニティ・スクールの導入率が非常に高く、全国でも先駆けて導入している。これも強みであり、小中学校で取り組んでいる教育と一貫した体系的な教育を目指し、本県の今後の高校教育に繋がっていくことを期待している。

佐藤 嘉彦 雫石町教育委員会 教育長

- ・ 雫石高校は、小規模の高校だが、町の将来の担い手の人材育成など大きな意義を持っており、通級指導や、探究活動などに取り組んでいることに期待している。地元の中学生が、憧れて地元の高校に入学するように支援を続けていきたい。
- ・ 昨今の経済状況等から、保護者の経済的負担をできるだけ軽減し、生徒が充実した学校生活を送ることができるように、町として今後も支援を継続していきたい。

石角 則行 葛巻町教育委員会 教育長

- ・ くずまき山村留学は、10年目を迎え効果が出てきたが、他方から生徒を呼ぶだけが目的ではなく、移住定住に繋がること等の新たな価値を地元の生徒たちが感じることも目的の一つである。
- ・ 公営塾は、国公立大学に40数名中17名合格するなどの効果が出ている。
- ・ 葛巻高校の入学者は、現在、半数以上が町外出身であり、地域と共に考えてきた成果だと考えている。魅力化とは、高校を魅力的にすることだけではなく、地域と一緒に学びを深めていくことにより、高校を含めた地域の魅力を高めることである。
- ・ 今後の高校の在り方も市町村と連携し、検討を進めていただきたい。

菊池 広親 矢巾町教育委員会 教育長

- ・ 地域や地域産業の人材育成、教育の機会の保障と教育の質の保証などの基本的な考え方はその通りである。
- ・ スクール・ポリシーにより、各校の特色を明確にすることによって、子どもたちの選択肢ははっきり定まる。中学生が興味を持って進路選択できるような高校の魅力づくりが大切であり、意志を確立できるような高校教育の在り方であれば非常にありがたい。
- ・ 教育上特別な支援を必要とする生徒が多くなっていることへの対応も必要である。

三浦 隆 盛岡市中学校長会（盛岡市立黒石野中学校長）

- ・ 新入試制度の趣旨からも、各高校の魅力化に大いに期待している。ただ、中学生からは、各高校の違いがよく分からないという声も聞かれる。
- ・ 普通科のさらなる特色化、普通科改革のように、新たな学科や新コースの設置等、各高校で取り組んでいただきたい。
- ・ 通学手段について、費用の問題や保護者の送迎等の問題で負担が生じている等の声も聞かれる。
- ・ 小中学校では、特別支援学級の個に応じた指導で支援を行っているが、特別支援の在り方も取り入れていただきたい。

藤澤 崇 紫波郡中学校長会（矢巾町立矢巾北中学校長）

- ・ 教育上特別な支援を必要とする生徒、不登校の生徒について、どのように対応していくか鑑み、高校再編を進めることが必要である。
- ・ 私立高校で生き生きとしている生徒がいるが、県立高校はどうなのかと思うところもある。